

II サブスペシャリティ領域

1 コース名

放射線診断専門医 専門医コース

2 プログラムの特徴

放射線科にて3年間の後期研修後、「放射線科専門医」の受験し、放射線科専門医取得後、更に2年間の研修後に「放射線診断専門医」、を受験し、合格して「放射線診断専門医」を取得することになります。

3 到達目標

放射線科専門医資格を取得後、放射線生物学、医学物理学、放射線防護・安全管理、画像診断学、核医学、IVRに関して「放射線科専門医研修ガイドライン」に基づく診断専門医研修カリキュラムにより2年以上の研修終了後、診断専門医試験に合格し、放射線診断専門医の認定を受けます。

4 プログラムの概要

(1) 修得項目

【4年目】

放射線診断: 以下の各項目について、指導者とともに50例以上の検査の指示を行い、読影レポートを作成します。①中枢神経 ②頭頸部 ③循環器 ④呼吸器 ⑤消化器 ⑥骨・関節・軟部(歯牙を含む) ⑦泌尿器・生殖器 ⑧乳房 血管撮影、IVR: 指導者とともに10例以上の症例を経験します。核医学診断: 指導者とともに以下の項目について各々30例以上の検査の指示を行い、読影レポートを作成します。①中枢神経 ②循環器 ③呼吸器 ④内分泌器 ⑤消化器 ⑥骨・関節・軟部 ⑦泌尿器・生殖器 ⑧腫瘍・炎症 放射線防護・管理: 指導者とともに、廃棄物処理、個人被曝管理の業務を経験します。学術・研究: 学会誌に原著論文を投稿します。

【5年目】

放射線診断: 以下の各項目について、指導者とともに50例以上の検査の指示を行い、読影レポートを作成します。①中枢神経 ②頭頸部 ③循環器 ④呼吸器 ⑤消化器 ⑥骨・関節・軟部(歯牙を含む) ⑦泌尿器・生殖器 ⑧乳房 血管撮影、IVR: 指導者とともに10例以上の症例を経験します。核医学診断: 指導者とともに以下の項目について各々30例以上の検査の指示を行い、読影レポートを作成します。①中枢神経 ②循環器 ③呼吸器 ④内分泌器 ⑤消化器 ⑥骨・関節・軟部 ⑦泌尿器・生殖器 ⑧腫瘍・炎症 放射線防護・管理: 指導者とともに、廃棄物処理、個人被曝管理の業務を経験します。学術・研究: 学会誌に原著論文を投稿します。

【6年目】

放射線診断: 以下の各項目について、指導者とともに50例以上の検査の指示を行い、読影レポートを作成します。①中枢神経 ②頭頸部 ③循環器 ④呼吸器 ⑤消化器 ⑥骨・関節・軟部(歯牙を含む) ⑦泌尿器・生殖器 ⑧乳房 血管撮影、IVR: 指導者とともに10例以上の症例を経験します。核医学診断: 指導者とともに以下の項目について各々30例以上の検査の指示を行い、読影レポートを作成します。①中枢神経 ②循環器 ③呼吸器 ④内分泌器 ⑤消化器 ⑥骨・関節・軟部 ⑦泌尿器・生殖器 ⑧腫瘍・炎症 放射線防護・管理: 指導者とともに、廃棄物処理、個人被曝管理の業務を経験します。学術・研究: 学会誌に原著論文を投稿します。

(2) 指導体制(指導医数)

9人

5 受け入れ可能人数

15人

6 修了後の主な進路

総合病院の放射線科の放射線診断の責任者として勤務します。

関連研修施設

放射線診断専門医

